

8・17大学立法施行粉碎に決起せよ

全国大学にバリケード

築き、巨万の実力行動へ

全国全共闘連合結成準備委員会

全都の労働者・学生・市民諸君！

八月三日夜、政府自民党は参院本会議で、大学立法の採決を強行、その「成立」を宣言した。一切の審議はむろん、委員会報告さえ行なわず、あらゆる議会的規程さえ踏みにじった「採決」が強行されたのである。

このことは、七〇年安保「自動延長」に向かう佐藤内閣の姿勢を鋭く突き出している。「安保・沖繩」大学問題に政治生命を賭ける」として登場した佐藤内閣は、十一月佐藤訪米を前にその一挙の完成を目指しているのだ。愛知訪米（五月）―アスバック川奈会議（六月）―日米貿易経済合同委員会（七月）と、日米両帝国主義者は十一月佐藤ニクソン会議に向けて着々と布石を準備してきている。こうした「安保・沖繩」を軸にした外交的諸準備と共に、国内支配体制の再編を狙ったものとして、「大学立法」は用意されたのだ。

東大、日大、京大闘争を頂点として闘い抜かれていた百二十校にも及ぶ大学闘争は、今日、全国的連帯・合流の質を保持している。それは既に個別学園における改良闘争の枠を大きく打破って前進してきている。七〇年安保粉砕闘争として、職場・街頭において闘う戦闘的労働運動とも深く合流するものとなっている。

「大学立法」はこうした七〇年戦線の一翼としての大学闘争に恐怖した日本帝国主義者が、日本帝国主義の七〇年路線「安保自動延長」の防衛のために大学闘争の暴力的破壊を意図し、登場させたものである。廃校・閉校の恫喝を加えて機動隊を導入し、一切の大学における闘いを圧殺せんとするものだ。学生は政治活動を禁止し、抵抗する教官・職員を暴力的に排除するという、帝国主義者の意のままに動く「大学」へ改編を狙うものだ。社会党・共産党はこうした政府自民党の意図と闘い抜くことが全く出来ず、逆に「暴力学生」への批判に終始している。帝国主義者と共に戦闘的學生運動に敵対し、大学立法を容認しているのだ。とりわけ共産党は、全国大学闘争のバリケードから叩き出されている中で、逆に反革命武装集団となってバリケードに襲撃を加え、闘う學生を警察権力に売り渡してきているのだ。

全都の労働者・学生・市民諸君！

日本帝国主義は七〇年乗り切りと、その最後の調整の場としての十一月佐藤訪米へ向け、万全の体制を整えつつある。「大学立法」の成立・施行はその重大な支柱である。

われわれは、この狙いに対して、全国大学のバリケードを一層強化・拡大することをもつて応えねばならない。全国大学にバリケードをはりめぐらし、「大学立法」を無力と化さねばならない。

全人民の総力で、この「大学立法」の一切の「執行」を粉砕しようではないか。全人民への敵対を宣言するものとして強行採決された「大学立法」の「施行」を阻止せよ。八月十七日、全都全共闘と共に「施行粉砕闘争」に決起せよ！

8・17 大学立法粉砕・全国全共闘中央統一行動

八月十七日午後三時 日比谷野音ステージ

主催 全国全共闘連合結成準備委員会